

3-3		主題	焼きそば 大好き!!	
食事		副題	～五感を刺激するケア～	
ターミナルケア				
研究期間	6ヶ月	事業所	特別養護老人ホーム やすらぎの郷	
発表者：金子 亜美 塩沢 彩			アドバイザー：松倉 悠一郎	
共同研究者：福田 久美子 木田 史子				
電話	03-5648-8250	メール		
FAX	03-5648-8251	URL		

今回発表の 事業所や サービスの 紹介	<p>社会福祉法人すこやか福祉会葛飾やすらぎの郷は平成13年4月に葛飾区の新宿に開設。特養 80 床、短期入所生活介護 16 床、デイサービスを併設した福祉施設です。</p> <p>やすらぎの郷は、地域の方々と共に高齢者の生活を支えていける場所を目指し日々の生活支援を行っています。特養では、家庭での生活のような環境づくりに努め個人の生活を大切にすする支援に努めています。</p>
------------------------------	--

<p>《研究前の状況と課題》</p> <p>嚥下であり、盲目の御利用者の食事摂取量が徐々に低下し衰弱が著しくなった。御利用者、後見人も含めて話し合い、胃ろうの検討もした。結果、最後まで施設で生活を継続したいとの本人の希望で、胃ろうの増設は行わない事になった。高カロリー食や補助食品にとらわれず、御本人とのコミュニケーションのとり方を工夫し、本当に食べたい物を提供し食欲が増す試みを出来ないか、看護課・栄養課の協力を得て検討を行った。</p>
--

<p>《研究の目標と期待する成果》</p> <p>嚥下で、盲目の御利用者とのコミュニケーションをどのように引き出し日々食べたい物を把握していくか、本人の好きな物を食べたい時に美味しく食べる事を目指した。</p> <p>楽しみながら美味しく食事が出来る事で、本人の食欲が戻り、体力が回復し、食事が楽しみとなり、以前のような生活が出来る事を目標とした。</p>
--

《具体的な取り組みの内容》

対象者：K氏 80歳 女性 介護度5
先天性聾啞、60歳頃視力消失。(全盲)
コミュニケーション方法：手の平に指で字を書き伝える。手話。静かな環境が好き。

食事、水分が低下していく中、本人の思いを聞く為に施設入所以前から関わりがある手話通訳士の協力をお願いし、本人の思いを聴取した。そこから本人の食べたい物や好きな物を聞きだすことができた。特定の人に限らず、全職員が本人の意向を理解するコミュニケーション方法の工夫を行った。

又、施設での食事にはこだわらずに提供する事にした。その時に食べたい鰻やネギトロなど、栄養課からすぐに提供してもらったり、職員が買い物に行き購入したり、その時の御本人の食べたいという気持ちに沿って提供し続けた。

食事時の様子や摂取内容をこまめに記録に残す事で職員間での情報共有を行った。

即席の焼きそばを好んで食べるようになってきた頃、食事を一緒に食べる仲間達とでホットプレートを使用し本人達の目の前で焼きそばを作った。御本人は、おかわりをする位に召し上がり、お茶も多く摂ることができた。

《取り組みの結果と評価》

御本人の嗜好の様子を見ていくと味の濃い物を好んで召し上がっていたことがわかってきた。栄養課から提供される食事の味付けを本人好みに濃くしてみた。又、御本人の前で焼きそばをホットプレートで焼き、料理する過程を一緒に体験し、においやその場の雰囲気を感じ五感を刺激し食欲をそそることができた。

その後も本人の好きな物を提供していき、日に日に食欲も増し体調も回復していった。

《まとめ》

食事は個別性が高く、日々、御本人の食べたい物は変わっていく。聾啞で盲目のK氏に限らず提供方法の工夫も含めて、どれだけタイムリーに食べたい時に食べたい物を食べて頂く事が大切かを学んだ。

《参考文献》

《提案と発信》

(重要) 現在の福祉業界は、現場からの発信力が試されています。貴事業所の取り組みを、広く他の事業所にも紹介し、福祉業界全体のレベルアップに繋げることができたら、大変意味のある発表になります。研究を通して、福祉業界への提案、他の事業所への呼びかけ等、貴事業所からの情報発信をご記入下さい。

【メモ欄】